報道関係者各位
プレスリリース
2023 年 5 月 16 日

一般財団法人山本美香記念財団
第 10 回「山本美香記念国際ジャーナリスト賞」が決定！
～授賞式は 5 月 26 日（金） 18 時より開催～

一般財団法人山本美香記念財団は、4 月 30 日に行われた第 10 回「山本美香記念国際ジャーナリスト賞」の選考会の結果 2 作が同時受賞、下記の受賞者に贈呈することといたしました。

＜本年度の受賞者および対象作品＞
〇ジャーナリストの宮下洋一氏(47)による著書、「死刑のある国で生きる」(新潮社)
〇朝日新聞記者・ルポライターの三浦英之氏(49)による著書、「太陽の子　日本がアフリカに置き去りにした秘密」（集英社）

選考委員 ： 岡村隆（編集者、探検家）、笠井千晶（ドキュメンタリー監督・ジャーナリスト）、
河合香織（ノンフィクション作家）、髙山文彦（作家）、吉田敏浩（ジャーナリスト）

＜選考委員講評＞
宮下洋一氏 「死刑のある国で生きる」
コロナ禍のなか、アメリカ、フランス、スペイン、日本での取材を行った労作だ。どうしても結論ありきな死刑について、加害者、被害者双方の視点から、フラットな立場から描いていくことで、読者に自分自身の問題として考える材料を提供していく。著者の美点は「わかったふり」をしないことだ。だからこそ、「なぜ」と幾度でも問い続けられる。立場によって、そして国によって正義は変わる。答えは一つではない問いを追求していく真摯な姿勢に、背筋が伸びるような思いがした。

三浦英之氏 「太陽の子　日本がアフリカに置き去りにした秘密」
日本が遠くアフリカでつくりだした歪み。それを一身に受けたままの残留児たち。歴史の「空白部」に置き去りにされたその存在。この知られざる事実を掘り起こし、残留児たちのアイデンティティーをめぐる悩み、貧困や差別による心の傷、日本人父親への複雑な思慕、厳しい環境をくぐってきた生の航跡を、丹念な取材で光を当てた。
著者は新聞社に属する組織ジャーナリストだが、その利点に安住したわけでなく、これが個人としての問題意識から始めた取材の成果を少しずつ積み重ねた末の「執念の一冊」である

＜授賞式＞

日時 :5 月 26 日(金) 18 時より
場所 :日本記者クラブ
※入場は報道および関係者のみ。取材希望のメディアは当日、会場にて受付けを行います。

＜山本美香記念国際ジャーナリスト賞＞
2012 年 8 月 20 日、シリア取材中に凶弾に倒れたジャパンプレス所属のジャーナリスト・山本美香の遺志を継ぐべく創設。世界中で起こっている様々な紛争や抑圧、災害や貧困などの下で暮らす様々な人々の生きる姿を伝える優れた国際報道を担うジャーナリストの支援、育成を目的とする。
世界の不正義や不条理に対して何がどのように不正義で不条理であるのか、伝聞ではなく自分自身の目と耳でとらえ、世界中に発信しようとするタフな行動力。また、それらの国々や地域において、生死のはざまをそれでも懸命に生きていこうとする人びとの姿を深い共感をもって世界中に伝えようとするヒューマニスティックな視座。本賞はその二つを併せ持つ国際報道をおこなったジャーナリストを選考の対象とし懸賞を行う。

【山本美香について】
ジャーナリスト。1967 年生まれ。朝日ニュースターの報道記者、ディレクターを経て 1996 年から独立系通信社「ジャパンプレス」に所属。アフガニスタンやイラク、コソボ、ウガンダ、チェチェン、インドネシアなど世界の紛争地を取材。イラク戦争報道でボーン・上田記念国際記者賞特別賞を受賞。2012 年 8 月 20 日、シリア内戦の取材中にアレッポにて銃撃を受け、殉職。

山本美香記念財団ウェブサイト:https://www.mymf.or.jp

※以下、非表示

【本件に関するお問い合わせ先】
一般財団法人山本美香記念財団
〒167-0051 東京都杉並区荻窪 3-36-14-1F
担当:藤原
Tel:090-4273-0749
E-mail:office-a@mymf.or.jp